

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（3月分）

派遣先：Vilnius university

氏名：児玉七海

ヴィリニウス大学で留学を初めてから約2か月が経過しました。3月になってからは雪が降り積もる日も少なくなり、最近では暖かい日が続き、また、サマータイムの影響で、20時近くまで外が明るいので不思議な感じがしています。街の中では、小さな花が公園に咲き始めていたり、人々のファッションが色とりどりになってきたり,,,そのような光景を見ていると、もうすぐヴィリニウスにも春がやって来るのだなあ、とわくわくした気持ちでいっぱいになります。

■カジュカス祭り

3月の最初の週末（今年だと3/4~6）に、リトアニアの伝統料理やお菓子、また地元の人やアーティストたちによる手作り物品が販売される、「カジュカス祭り」が開催されました。



リトアニア人の友達に聞いたところ、去年はコロナの影響であまり大規模には開催できなかったらしいのですが、今年はお店の数も人も大変多く、とても賑わっていると彼女は驚いていました。フェアでは、具体的にリトアニアのイースターで伝統的に飾る花の装飾や色とりどりの卵、琥珀や木を使った工芸品、また蜂蜜やビールなど、リトアニアならではの物品が所狭しに並び、それらを見ているだけでも非常に楽しかったです。3月とはいえ、まだ外は冬の気温でフェアに参加しながら私は凍えていましたが、リトアニア人がこのお

祭りを楽しんでいる様子や、路上で披露されるライブやちょっとした出し物を見ていると、心が自然と温かくなっていました。ヴィリニウスではこのような大きな伝統イベントから単発的に開催される小さなイベントまでが街で定期的で開催されており、そのたびに人々がリトアニアという小国を盛り上げようとしているのだなあ、と感じています。



■ポーランド旅行

3月の中旬ごろに週末を使って友達とポーランドへ旅行に行きました。3日間でポーランドの首都ワルシャワ、第二の都市クラクフ、そして最大のユダヤ人収容所であったアウシュビッツ（オシフィエンチム）を訪れました。ポーランド、とくにクラクフ歴史地区は「ザ・ヨーロッパ」といった感じの街並みで、日中も夜もどこを見ても美しい都市でした。ワルシャワやクラクフでの経験をもっと書きたい気持ちは山々ですが、ここでは特にアウシュビッツ訪問について記していきたいと思います。

アウシュビッツではガイドをつけてツアーという形で見学することも可能ですが、私たちはあえてツアーという形にせず、個人でガイドブックをもとに博物館内を見学しました。その日は気持ちのいいくらいの快晴だったのですが、悲しく残酷な過去を現在もそのままの形で保存しているアウシュビッツでは、その天気が違和感として感じてしまいました。

はじめに訪れたビルケナウ収容所では、よく歴史の教科書などで見る線路のしかれた風景を中心に、非常に広大な範囲にガス室や焼却炉、バラックが点在していました。ナチスが第二次世界大戦後に証拠隠滅のために破壊しようとした焼却炉の残骸を見た時は、ナチスの犯した大罪に対する怒りだけではなくどこか悲しさも感じました。



次にアウシュビッツ強制収容所 I へ訪れました。一見普通の住宅地のように見える収容所ですが、ここでは劣悪な衛生下での日々の暮らしや被害者たちの遺品が生々しく展示されていました。撮影が禁止されるほど、ナチスの犯した重犯罪の証拠を残しているスペースもあります。

アウシュビッツではヨーロッパの学生が団体ツアーで訪れている様子も見られ、第二次世界大戦中の悲劇的な過去を学び、今後もその記憶を継承していくための人道教育の場として、重要に機能している跡地なのだと痛感しました。

少し首都ワルシャワから遠いですが、歴史の教科書の中だけでは知ることのできない、ヨーロッパ最大のユダヤ人虐殺の真実について学ぶことができるので、ポーランドを訪れた際は、ぜひ足を

運んでほしいです。

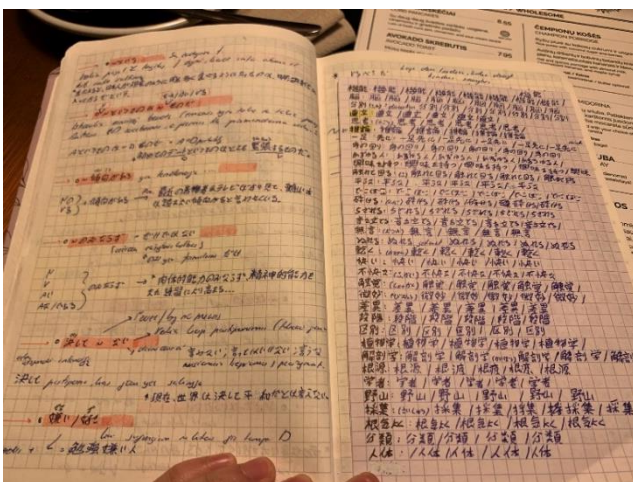
■ ヴィリニウス大学での学習

ヴィリニウス大学は経済学部などを除き、基本的にキャンパスで対面の授業を行っています。クラスは、先生が90分間しゃべり続ける「レクチャー」のクラスと、学生がプレゼンやグループディスカッションを行う「セミナー」があります。はじめは高齢のリトアニア人の先生が話す英語が強いリトアニアのアクセントを含んでいるため理解が難しかったり、ほかの留学生の英語力に圧倒されたりしていましたが、今ではこのスタイルにずいぶん慣れてきたと思います。出発前、クラスで出される課題の多さを懸念していましたが、私の履修している授業はどれも重い課題を出されるわけではないので、ほかの言語の学習や日本語授業への参加などを今月から開始しました。

・ イタリア語の勉強

ESN buddy という学生団体が主催する「Multilingual Lithuania」というイベントでは、留学生がその国の言語をほかの留学生に教え、さまざまな言語を勉強できる機会が提供されます。私はその中でイタリア語を選び、毎週水曜日にキャンパスで授業を受けています。セメスターによってどの言語が学べるかは異なると思いますが、前のセメスターでは日本人留学生が日本語の授業を行っていたと聞いたため、日本語を教えることに興味がある人はずいぶんチャレンジしてみるといいと思います。私は趣味程度でイタリア語を学ぼうと参加しましたが、ほかの留学生は想像以上にハイレベルなイタリア語の修得を求めているようで（笑）、最近では授業に置いて行かれないようにしっかり復習をして授業に臨むようにしています。しかし授業では、イタリア人留学生が丁寧に、みんなからの質問に答えながら進めてくれているため、楽しく学ぶことができます。

・ 日本語授業への参加 ↓ある日本語学部生のノート



言語を学ぶ側だけではなく、教える側としてもヴィリニウス大学では日本語の授業へ参加し、学習者のサポートを行っています。現在は日本語学部3年生の授業に参加していますが、彼女たちは日本語の勉強にとっても熱心で、スピーキングもよくできていて話すたびに感心させられています。また文化の面でも、ある子はお茶に興味がありお茶をたてることができたり、ある子はアニメが好きな私でさえも見たことが

ないような、マイナーなアニメをとっても多く知っていたりと、日本人よりも“日本人”だと感じる場面が多々あります。授業で扱われている読み物は、日本の中学生や高校生が国語の

授業で読むようなものと似ていて、想像以上にレベルが高く驚きました。その読み物のテーマに基づいて毎週の授業では、日本語でディスカッションをし、私は基本的に用語の説明をしたりディスカッションのファシリテーターとして議論を進めたりしています。また来月からは、日本語学部2年生の授業にも顔を出してみる予定です。